

カーボンニュートラル

TCFD提言に基づく情報開示 ↓ CO2排出削減・気候変動 ↓ ISO14064-3に基づくGHG排出量の第三者検証 ↓

浜松トニクスグループは気候変動を用いて、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献します。当社グループは、「気候変動問題への対応」を重要課題の一つに位置付け、「地球温暖化対策に係る長期ビジョン」及びSBT目標の達成に向け、TCFD提言に基づいた取り組みを強化してまいります。バリューチェーン全体における気候変動リスクを評価し、気候変動が当社グループの事業に与えるリスクや機会、財務的影響への分析を推進しました。TCFD提言に基づいた検証結果の一部を掲載いたします。

TCFD提言に基づく情報開示

2020年8月、当社は気候変動関連財務情報開示タスクフォース（TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures）による委員への賛同を表明し、気候変動が当社グループの事業に与えるリスクや機会、財務的影響への分析を推進しました。TCFD提言に基づいた検証結果の一部を掲載いたします。



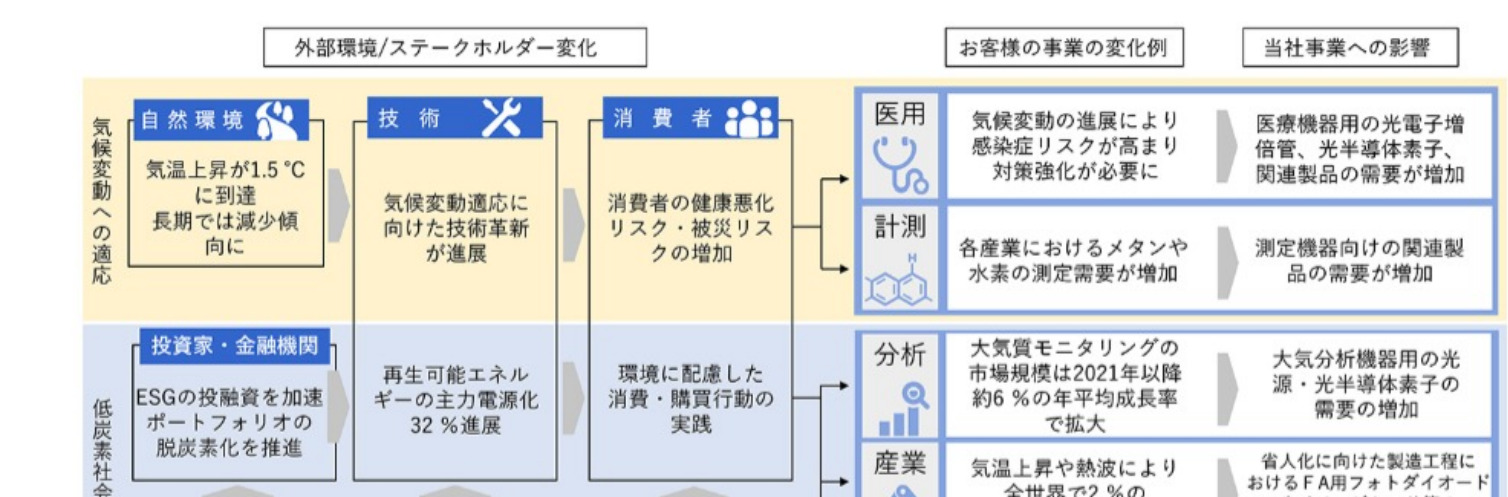
ガバナンス

当社は浜松トニクスグループサステナビリティ基本方針、浜松トニクスグループ環境方針に基づき、気候変動関連へのリスク・機会や取り組みを重要事項と認識しています。執行役員を委員長とする環境委員会、ならびにその配下の環境専門部会、ワーキンググループにて進捗状況や検討したマテリアリティへの対応を、サステナビリティ事務局（経営企画部環境課）にて報告しております。重要事項は執行役員会、取締役会にて報告のうえ、監督を受けて、取締役会を全社に展開するPDCAを構築しています。

浜松トニクスグループサステナビリティ基本方針、推進体制：
<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company/sustainability/approach-to-sustainability.html>
 浜松トニクスグループ環境方針：
<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company/sustainability/environment/environmental-management.html>

戦略

当社は、気候変動による様々な変化が、当社の事業に影響を及ぼすと認識しています。その中でも特に重要なリスク・機会を特定するため、事業全体を対象に、1.5/2℃、4℃でのシナリオ分析を下記ステップで実施しました。



01/重要リスク・機会の特定

現在および将来に想定される当社が直面する気候変動リスクと機会を抽出しました。当社のステークホルダーの関心や得る重要性を簡潔にしました。その結果、16項目の移行及び物理リスク、並びに機会を特定しました。

影響度	リスク	機会	
大	<ul style="list-style-type: none"> #1 産業転換/移行規制の導入による運用コストの増加 #2 規制要件・規制強化による負担・罰金リスクの増大 #3 顧客からの評価低下・売上減少・競争力低下 #4 再エネ導入・省エネ推進による短期的な運営コストの増加 #5 原材料に対する規制強化 	<ul style="list-style-type: none"> #6 風水害の激化による業務停止リスクの増大・売上高の減少 #7 風水害の激化による稼働の増加 #8 平均気温の上昇による空調・冷房コストの増大 #9 平均気温の上昇による従業員の出勤不可に伴う事業停止リスクの増大・売上高の減少 #10 風水害の激化による従業員の出勤不可に伴う事業停止リスクの増大・売上高の減少 	<ul style="list-style-type: none"> #11 気候変動対応に資する製品・サービスの提供による売上高の増加 #12 新市場への参入による収益増 #13 顧客・投資家の評判の獲得による費用の減少 #14 再エネ導入・省エネ推進による収益増 #15 気象レジリエンス強化による長期的な売上高の増加・費用の減少
中～小	<ul style="list-style-type: none"> #16 投資家からの評価低下・競争力低下 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 取水・排水による稼働量の減少に伴う生産量の減少が生じり売上高の減少 	

02/シナリオ群の定義

2030年時点での1.5/2℃、4℃シナリオを設定し、気候変動への適応と産業変化への移行について、外部環境とステークホルダーの変化を考察しました。また、それによって発生する可能性がある当社顧客セクターの変化を予測し、当社事業への影響を検討しました。



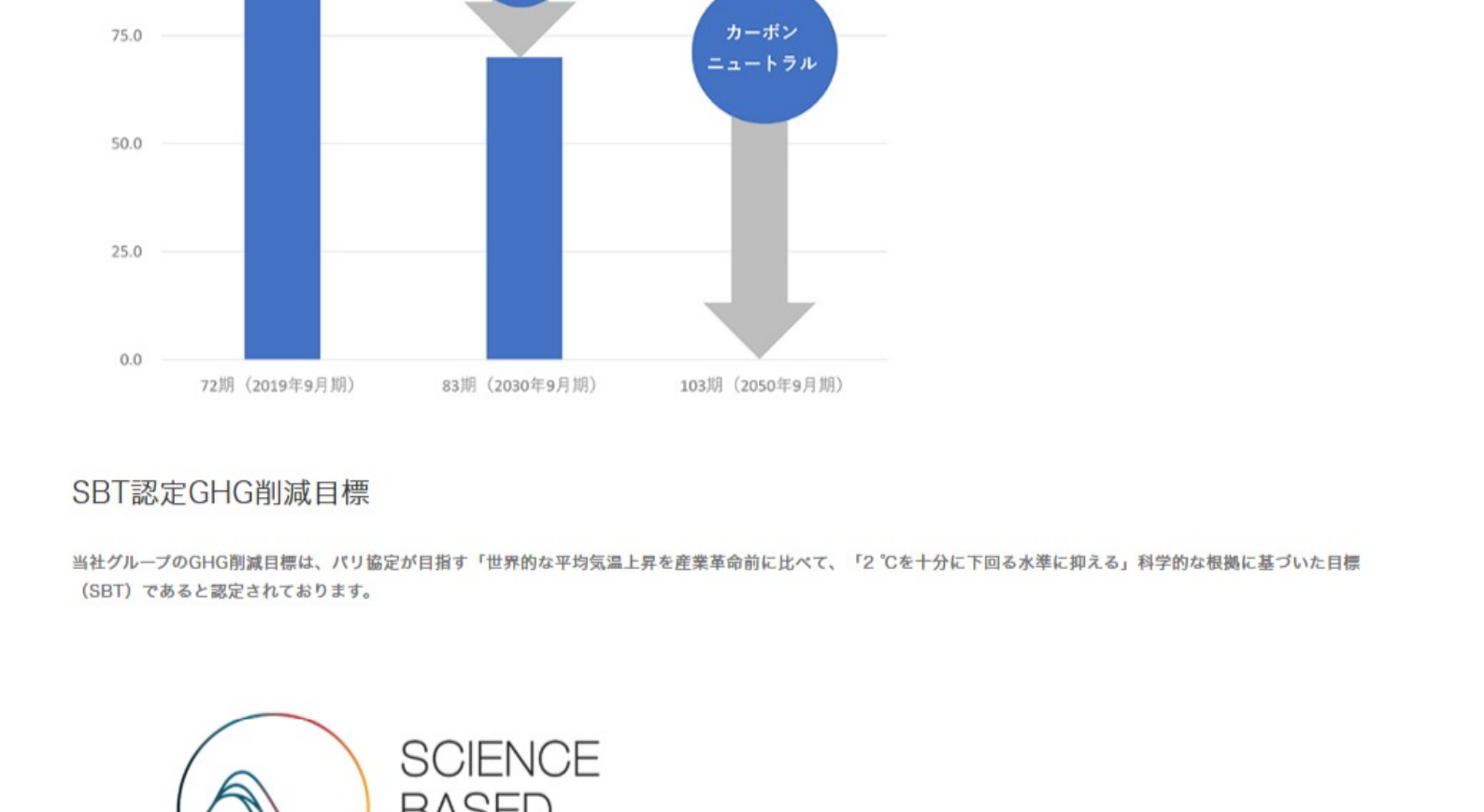
03/事業インパクト評価

各シナリオが当社の戦略的・財務的ポジションに対して与える影響を評価するため、感度分析を行いました。気候変動リスク、機会のうち、重要度の高い項目について、それぞれにおいて事業インパクト測定方法を検討し、利用可能な内外のバリエーションから算出し、検討しました。（一例）

種類	事業へのインパクト (2030年)	財務上の潜在的影響	
		1.5/2°C	4°C
リスク	移行	製品競争力が低下し、顧客からの評価低下による売上減少	大
	物理	再生可能エネルギーの導入、省エネギ一推進による短期的な運営コストの増加	中
機会	移行	風水害の激化による業務停止（生産装置、物流、在庫、サプライチェーン）、売上減少	中
	物理	医用・バイオ機器：機体検査機器向け関連製品の売上増加	中
機会	移行	産業用機器：EVバッテリー検査装置向け関連製品の売上増加	中
	物理	分析機器：環境分析向け関連製品の売上増加	小

04/対応策の検討

事業インパクト評価結果に基づき、影響が大きな内容に対して対応策を実施しています。環境委員会、ならびにその配下の環境専門部会、ワーキンググループ/関係者にてリスクや機会のテーマに応じたプロジェクトを立ち上げ、対応策を検討、実施しています。また当社事業・技術によるカーボンニュートラルの実現にも取り組んでいます。



対象	概要	対応策
Scope1#1	燃料使用機器・設備の転換	・ 社用車を電動自動車への切り替え ・ 設備の電化 ・ 新規技術導入後、該当設備の導入
	カーボンオフセット	・ 質の高いクレジットを購入
Scope2#2	エネルギー使用削減	・ 省エネ機器、設備の導入
	再生可能エネルギー導入	・ オンサイト・オフサイトPPAの導入 ・ RE100対応新電源の導入
Scope3#3	カーボンオフセット	・ 質の高いクレジットを購入
	カテゴリ削減	・ バリューチェーン上流からのテック取得精度向上 ・ SBT1サプライヤー・エンゲージメント推進
Scope3#3	カテゴリ削減	・ 製品使用時における温室効果ガス（GHG）排出量削減のための設計

リスク管理

当社は環境管理規定を定期的な全社的な環境マネジメントシステムを採用しています。環境委員会、環境専門部会では3か月間一度、気候変動に関連したリスクの識別およびリスクを評価してまいりました。この際、SBT認定や対象顧客の変更等を反映し、浜松トニクスグループの長期ビジョンを反映してまいりました。また海外現地法人においても、自己消費太陽光発電設備（発電容量総計：約1.1MW）や、グリーン電力証書の導入を計画しており、今後もグループ全体での対応を推進してまいります。

指標と目標

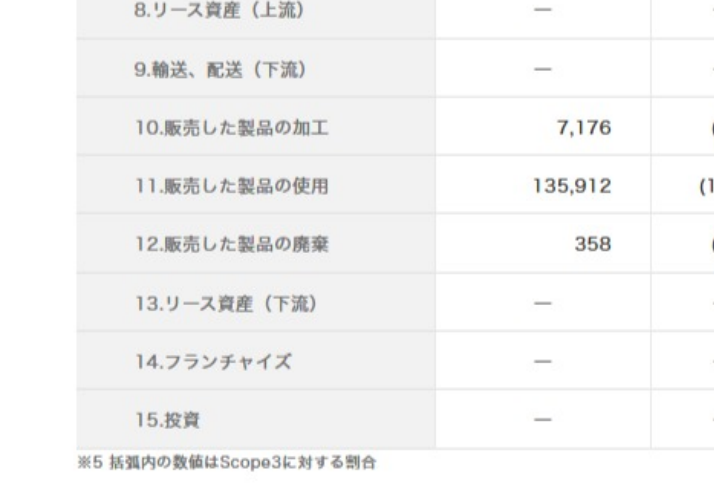
地球温暖化対策に係る長期ビジョン

浜松トニクスは2020年3月、地球温暖化対策に係る長期ビジョンを策定し、「104期（2051年9月期）にGHG（Scope1+2）を71期比83%以上削減する」という目標を定めて活動してまいりました。この際、SBT認定や対象顧客の変更等を反映し、浜松トニクスグループの長期ビジョンを「2050年カーボンニュートラル達成」という新しい目標に見直しを行いました。今後も事業活動から排出されるGHGの削減に向けてグループで取り組んでまいります。



SBT認定GHG削減目標

当社グループのSBT削減目標は、パリ協定が目指す「世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて、2℃を十分に下回る水準に抑える」、科学的根拠に基づいた目標（SBT）であると認定されております。



■ 当社グループのSBT目標

Scope1+2	Scope3
・ 84期（2031年9月期）にGHG排出量を72期（2019年9月期）比で30%削減する	・ カテゴリ11：販売した製品・サービスの使用による排出量を84期（2031年9月期）までに15%削減する ・ カテゴリ1：購入した製品・サービスによる排出量の76%を占める主要サプライヤーに対し、79期（2026年9月期）までに科学に基づく削減目標の設定の要請・共有を推進する

RE100への加盟

当社は、再生可能エネルギー100%での事業運営を目指す国際イニシアチブ「RE100」に2022年10月3日に加盟しました。国内外グループにおける事業活動で使用する電力を、2040年までに再生可能エネルギー100%とするを目標としています。



CO2排出削減・気候変動

Scope1とScope2のGHG排出量

77期のCO2排出量は再生可能エネルギーの導入等により、72期比で82%削減し、大規模なGHG排出量の削減を実現しました。今後も対応策に沿ってGHG削減目標を達成してまいります。



バリューチェーン全体の排出量（Scope3も含めたGHG排出量）

バリューチェーン全体での環境負荷を把握するために、当社ではGHG排出基準である「GHGプロトコル」に基づき、Scope1、Scope2に加えて、Scope3の算定にも取り組んでいます。

※ 算定範囲：浜松トニクス株式会社、国内連結会社、海外連結会社（報告対象）

カテゴリ	75期排出量	76期排出量	77期排出量
Scope1 (直接排出：燃料の使用等)	1,233 (1.5%)	7,130 (1.0%)	5,705 (1.1%)
Scope2 (間接排出：購入電力の使用)	46,271 (6.2%)	1,840 (0.3%)	1,614 (0.3%)
Scope3 (その他間接排出)	685,923 (92.3%)	707,115 (98.7%)	531,521 (98.6%)
1. 購入した物品・サービス	408,044 (59.5%)	404,124 (57.2%)	283,264 (53.3%)
2. 資本財	98,641 (14.4%)	145,335 (20.6%)	108,256 (20.4%)
3. Scope1・2に含まれない燃料及びエネルギー活動	10,811 (1.6%)	1,484 (0.2%)	1,109 (0.2%)
4. 輸送、配送（上流）	17,747 (2.6%)	15,892 (2.2%)	9,004 (1.7%)
5. 事業から出る廃棄物	486 (0.1%)	417 (0.1%)	442 (0.1%)
6. 出張	754 (0.1%)	2,659 (0.4%)	2,908 (0.5%)
7. 従業員の通勤	5,995 (0.9%)	6,091 (0.90%)	6,572 (1.2%)
8. リース資産（上流）	—	—	—
9. 輸送、配送（下流）	—	—	—
10. 販売した製品の加工	7,176 (1.1%)	6,709 (0.9%)	5,438 (1.1%)
11. 販売した製品の使用	135,912 (19.8%)	124,392 (17.6%)	114,429 (21.5%)
12. 販売した製品の廃棄	358 (0.1%)	12 (0.0%)	8 (0)
13. リース資産（下流）	—	—	—
14. フランチャイズ	—	—	—
15. 役員	—	—	—

Scope2の削減～再生可能エネルギーの活用～

カーボンニュートラルの実現に向けた具体的な方策の一つとして、2022年10月より、国内拠点^{※6}における購入電力のすべて（年間約124GWh）を再生可能エネルギー^{※7}に転換してまいりました。その結果、SBT認定や対象顧客の変更等を反映し、浜松トニクスグループの長期ビジョンを「2050年カーボンニュートラル達成」という新しい目標に見直しを行いました。今後も事業活動から排出されるGHGの削減に向けてグループで取り組んでまいります。



Scope1の削減～GHG除外装置の活用～

半導体製造プロセスにおいて必要不可欠なHFC、PFC、SF6、NF6などのGHGは、地球温暖化への影響が大きく、CO2の約25倍の地球温暖化係数（GWP）を有するものもあります。当社ではGHG（PFC、SF6）削減装置の積極的な導入、プロセスの最適化などにより、排出量削減に取り組んでいます。

ISO14064-3に基づくGHG排出量の第三者検証

当社が算定したGHG排出量データ（Scope1・2・3）について、透明性・信頼性の高い情報提供・公開するため、第三者検証を受託し、検証結果を取得しました。今後もデータの信頼性とGHG排出量の継続的な改善に努めてまいります。

- <69期> 検証意見書/Verification Statement [503 KB/PDF]
- <71期> 検証意見書/Verification Statement [235 KB/PDF]
- <72期> 検証意見書/Verification Statement [1.76 MB/PDF]
- <73期> 検証意見書/Verification Statement [773 KB/PDF]
- <74期> 検証意見書/Verification Statement [1.36 MB/PDF]
- <75期> 検証意見書/Verification Statement [1.38 MB/PDF]
- <76期> 検証意見書/Verification Statement [1.51 MB/PDF]
- <77期> 検証意見書/Verification Statement [576 KB/PDF]

Environment (環境)

- 環境マネジメント > 汚染の予防・廃棄物管理 > カーボンニュートラル
- 環境配慮型製品・環境貢献製品 > 水資源の確保の取り組み > 生物多様性の保全
- 過去の環境報告 >